

勇気の「4人が頻繁に入札のことで相談」証言

去る8日開かれた官製談合疑惑調査特別委員会では約20名の傍聴者(マスコミ記者は除く)であふれ、疑惑の関係者は関与を否定。しかし、宮崎議員が野瀬氏との会話などを証言し、議会事務局で入札に関する相談を直接見聞きした女性職員が勇気ある証言を行ったことで、大きく前進しました。

西澤議員から、第10回委員会の概略について次のような報告がありました。

目の前で起きた官製談合準備の会話

なが～く、暗いトンネルの先にほのかな灯りが見えかけた委員会審議の内容だったと思います。

当事者、野瀬氏は3度め、山田議長は2度目、淡々と「談合はしていません」と関与を否認。

しかし、急きょ証人に立ってくれた彼女が涙、涙の証言で締めくくってくれた感動が余韻として胸を打ちます。委員の多くも傍聴席も、目頭を熱くしていたのを見受けました。現役の町職員で、いろんな攻撃も

あろうかと予測される中を押して「談合成立のため」と見られる打ち合わせなどを真近かで見聞きしたことを、勇気をふり絞って証言してくれたことに、議場は感謝の拍手が起きたほどでした。

村田事務局長が昨年4月に転任して来てから、濱野議員が「(自分には)1億円以上の工事はさせてもらえんのか」とぼやいていたのは、Aランクへの格上げを「ねだったように受け取れた」こと、野瀬氏らが「電卓をたたきながら、(公表された予定価格に40万円をプラスした額の)85%でいかんと隙間をつかれる」と話していたこと、「町が決めた価格(最低制限価格)は公表されないから大丈夫、そのものズバリでいかなあかん」・・・など、入札事務の機密としているはずの重要情報が、見事に浜野工務店の実質経営者である濱野圭市氏に説明されていたことなど、大変リアルな証言をしてくれました。

しかも、金澤議員の「前回の村田局長がいる時はそこまで証言してない。前と違うので信用できない。死人に口なしやからか」「私は村田局長の親戚でもあり、話をしたときには、やっていないとはっきり言っていた」などとの質問には、彼女は泣きながら「死人に口なしという発言は撤回してください」と毅然と抗議し、村田局長だけにかぶせようとしている関係者に許せない気持ちを、涙をこらえ、必至で訴えながら「野瀬主監、山田議長、濱野さんも、ウソをついていると思います」とキッパリ言い切りました。

最後に、「官製談合がされていたと思う」と、確信の証言で締めくくってくれました。

【裏面に続く】

百条委員会 今後の予定

藤堂委員長は、「委員長一任決定」(7月5日)に基づき、報告書取りまとめ基本方針を報告。「取りまとめ」の助言者として玉木弁護士(滋賀第一法律事務所)が快諾してくれたことも報告。次回委員会に「報告案」を提示することが決まり、各委員は調査に対する意見書面を11月29日までに提出することも確認しました。

第11回委員会 11月24日13:30開会
第12回委員会 12月8日全協後(時間未定)

「官製談合あったと認識」
百条委 議会事務局 局長補佐の女性職員
甲良町議 局長補佐の女性職員
会 官製談合が、昨年7月の工事入
合 疑感調査特別委員会 札前に議長や副議長
(百条委)が8日開か (当時)、議会事務局
れ、証人の町議会事務 長(同)、総務主監(同)
の4人が具体的な数字
を上げて最低価格など
を話し合うのを見た
証言。「官製談合はあ
ったと認識している」
と述べた。百条委は24
日の委員会で調査報告
案を提示する予定。
この日は元総務主監

ら3人を証人に呼び、事務局局長補佐にも急ぎよ証言を求めた。補佐は「昨年4月中旬ごろから4人が集まるようになった」と話し、「(予定価格の)85%を狙ってくる」「(予定価格にプラスされる)40万円のことほ他の業者は知らない」など、4人が入札にかかわるとみられる話をしていたと証言した。当時の副議長は、地域介護福祉空間施設の落札業者の代理人としてこれまでに証人喚問を受けている。この業者は入札前に町の建築Aランクになっていた。当時の議会事務局長は6月に自殺した。補佐は「局長だけが悪いのではない。かわった人は正直に証言してほしい」と涙ながらに訴えた。【松井園花

11月9日付け毎日



メール siga-koura463@jcp-nobuaki.com ホームページ: グーグル「西澤伸明」で検索 月3回発行(休刊:月末または月始)

甲良民報

2010年11月14日 460号
発行責任: 日本共産党甲良町支部
代表: 西澤伸明 甲良町在士463
Tel. Fax 38-4949

「つい、ほんまのこと言ってしまった」発言 野瀬氏も認める

関係者にも真実を認めざるを得ないところで、大きな前進がありました。

野瀬氏は、昨年7月16日夜宮寄議員と建設課横の部屋で話した場面で、「私から『つい、ほんまのことを言ってしまった』と言ったのではなく、宮寄議員がその問いを投げかけて、私は「はい」と返事をしただけです」と消極的ながら、「つい、ほんまのことを言ってしまった」発言を否定できなくなっていることは重大です。

「ウソを取られたと つらぬき通す以外にないな」

山口氏がケイタイの電源を切り、ICレコーダーの電池を抜いたものを見せ、「丸腰」で安心したため「つい、ほんまのこと言ってしまった」と野瀬氏が言ったと言う宮寄証言には臨場感ありました。

さらには、これからどうするつもりや、という宮寄議員の問いに、野瀬氏が「(録音は)ウソを取られたんやとつらぬき通す以外にないな」とも言ったという証言は野瀬氏、山崎氏らのその後の対応とも一致して、より真実味がありました。

「浜野を入れなんたら・・・」発言は行政に苦情を言ったつもり

もう一つの前進は山田議長です。昨年7月17日町長室での会話、山口氏がいる前で「浜野を入れなんたらよかった～」、町長に向かって「今から解除で

きんやろか」と発言したのかとの問いに、「言ったとしたら」と条件を付けながらも「行政に苦情を言うつもりだった」と証言。これには委員から、「どうして、その発言が行政への苦情になるのか」と責められ、いい訳に苦慮する場面も。山田議長の言い分であったとしても、浜野工務店を指名業者に加えたことへの後悔の念があふれ出たものと言えます。

「言っていない」や「覚えていません」との証言が、もはや通用しない状況になってしまった、と山田議長も覚悟を決めたのかなとも受け取れます。それでも全面否定できなくなった、というのは「疑惑解明」に向け大きな前進でした。

ここまで来たのは 一致点での結束

これも、解明を求める議員、町長はじめ職員、多数の町民の結束があればこそ、到達できた成果だと確信できるのではないのでしょうか。



・・涙の証言・・

「みなさんはウソを ついておられます」

8日、約1時間にわたる彼女の証言の後部を紹介します。「全容を解明してほしいという気持ちはどうでしょうか」との問いに答えて、彼女は、次のような言葉で証言を閉じました。

私の意見としては、村田局長はもし、このような事がなかったら、自殺していなかったと思います。あの方が、あんな強い人が、だれかに何かを言われたくらいで亡くなるということはありません。いつもかわいい孫の話とか、お母さんの話、娘の話、息子の話、もうすぐ息子の嫁、結婚がどうのこうのと言っておられたのに、死んでしまったことが、すごく私にはずっと残っていますので、村田局長一人の責任ではないので、みなさん正直に言ってほしいという思いで、ずっと(関係者の証言を)聴いてきました。でも、みなさんはウソをついておられます。(中には)真実のこともあるかも分かりませんが、私も居るところの話では・・・だから、私がいくらここで証言しても、警察にも言ったのですが、証拠にならないと言われたので、これは、もう、かかわった関係の方が、少しでも村田さんのことを思うのであるなら、正直に言ってほしいと、ずっと思っている次第です。だから、議員のみなさんも解明に向けて、もっともっと努力して頂きたいと思います。